

健康寿命延伸——介護食業界から注目

【北大阪】JA北大阪が農研機構と共同開発した機能性表示食品「農協のスーパーすぎるごはん」が介護食業界などから注目され、新たな販路が生まれている。行政や企業などと連携し、高

JA北大阪

齢者の栄養摂取を推進する在宅栄養ケア推進基金（高知県）が「低栄養を防ぎ、健康寿命の延伸に結びつく」として、同商品に着目。薬局や食堂に活用を勧め、取り扱いが始まった。

農協のスーパーすぎるごはん

薬局や弁当に 栄養士も評価

同商品は白米に混ぜて炊き、血糖値の上昇を穏やかにするなどの効果が期待できる。そうした特徴を同基金は高く評価。「身近なご飯で食物繊維を豊富に

とについて「農業振興につながり、地方創生を目指す私たちの理念と合う」と話す。「医福食農連携で高齢者のフレイル（心身虚弱）予防に取り組みながら、持続可能な地域社会を築きたい」と考える。



「農協のスーパーすぎるごはん」を使った健康志向食堂おびやまち店の弁当（高知市で）

管理栄養士と管理栄養士を目指す学生らが共同でメニューを考案する「健康志向食堂」（高知市）でも、同基金の働きかけによって、1月から同商品を弁当などに使うようになった。

管理栄養士の中内玲奈さんは「病気のせい

で食事が嫌になっは者健康支援型配食サービス事業を全国展開した目も良く、おいしいご飯を食べてもらえ」と評価する。試験運用を検討している。基金と協働し、高齢



薬局で販売されている「農協のスーパーすぎるごはん」（高知県内で）

農協のスーパーすぎるごはん JA北大阪が研究栽培した玄米と、農研機構が開発した大麦などをブレンドした商品。2022年に発売。JA全農の通販サイト「JAタウン」、同JA管内の直売所などで扱っており、発売以来約3500個（6袋入り・1袋28g）を売り上げる。